

学生のアクティビティ

公募による「学生自主企画プロジェクト」を実施しました

リーダーシップ養成教育研究センターは、学生の自主性と主体性を向上させることを通じてリーダーを育むために、2012年12月に公募による「学生自主企画プロジェクト」を実施しました。公募による学生自主企画の実施は本学初の試みです。試行的な実施の為、大変短い応募期間でしたが、多数の応募がありました。その中から、学部・学科・学年を越えた学生間のコミュニティの形成およびお茶大キャンパスの活性化に寄与する企画ということで、次の3組のプロジェクトが選ばれ、企画実施費が授与されました。今回はプロジェクトを実施した学生からの報告をお届けします。

学士力ってどんな力？

—高等教育機関としての大学の社会における役割とその展望—

めまぐるしく変化する現代社会における大学の役割とは、そしてその大学において私達学生が得られる力＝「学士力」とはどのようなものでしょうか。2012年12月15日(土)に開催した本シンポジウムは、この問いへの講演及び討論の場として設計しました。

第一部では、横浜市立大学より高野篤子先生、人事コンサルティング Joe's Labo より城繁幸先生、そしてお茶の水女子大学より半田智久先生をお招きし、ご講演をいただきました。高野先生は、大学

の研究機関としての側面から、諸学問の基礎的な知識とそれを活用するための論理的思考力の養成を、城先生は、日本企業の終身雇用体制の限界という視点から、OJT に代る実務教育及び課題発見能力の育成を、半田先生は、大学進学率の上昇を受けて、個々の学生が自らの関心に向き合い個性を伸長させることへの支援を提唱されました。

第二部では、来場者13名と講師3名、そして我々主催学生3名全員が口の字型に座り、盛んに議論を交えました。就職活動を始めた大学生、社会に出たのち再び大学における学修を選んだ社会人入学生、改めて自身の大学生活を振り返る社会人、大学進学を目指す高校生など、さまざまな立場の人々による意見の交換は、通常の大学生活ではなかなか体験できない新鮮なものでありました。

白熱した3時間半はあっという間に過ぎ去り、全員の納得のいく「学士力」の定義を見出すには至りませんでした。しかしながら、今回のような学生主体の討論の場を設けることは、「学士力」の実践例の一つと言えるのではないのでしょうか。

文責：吉岡悠紀子（文教育学部人文科学科3年）



第一部の講演の様子

半文半理ワークショップ

私たちは学生自主企画採択イベントの一つとして「半文半理ワークショップ」を開催しました。「半文半理（はんぶんはんり）」という単語は、様々な物事がもつ“文化的な背景”と“科学的な背景”の両面を一挙に学んでしまおうというコンセプトから名づけました。また、本企画では実物が目の前にあり、かつ、講師・参加者・企画者の三者が互いに活発に意見交換ができる体験型ワークショップを目指しました。今回は初めての試みでしたので、身近な「食」にスポットを当て、その中でも「発酵現象」に絞り込んだものをテーマとしました。私たちは2012年12月12日(水)に「香りで味わうお酒講座」（講師：富岡伸一 様）、同月19日(水)に「発酵の魅力発見講座」（講師：福岡

奈美様）の2つの半文半理ワークショップを開催いたしました。五感を存分につかってお酒・味噌・醤油を体験する内容でした。両日合わせて60名近くの参加者が集まり、とても賑やかな雰囲気を作り出すことができました。

企画の際に苦労した点として、必要なヒト・モノ・ジカンのマネジメントが非常に難しかったことが挙げられます。これらは4人の企画メンバーと協力して解決することができました。良かった点としては、非常に多くの参加者に喜んでいただけたことです。テイスティングの際には、参加者の方々の会話が弾んでいる様子が見られました。また、アンケートでは90%以上の方に、「非常に満足・満足」との

「日本の貧困問題について考える」プロジェクト

「日本の社会問題を、より身近に！ 一映画で学ぶ貧困問題一」

現在、日本は「5人に1人が生活苦」とよばれる時代です。背景には、社会保障制度の脆弱さ、周囲の無関心・誤解など、様々な要因があります。特に学生の間では海外の貧困問題への関心が強く、日本の貧困問題が軽視されていることを、私たちは痛感していました。

こうした現状を踏まえ、学生たちにもっと日本の貧困問題、ひいては様々な社会問題を身近に感じてほしいとの思いから、私たちはプロジェクトを発足し、ドキュメンタリー映画「渋谷プランニューデイズ」の上映会と映画監督の遠藤大輔氏とのトークセッションを主催しました。

本企画を主催するにあたり、上映映画の選定、宣伝ポスターのキャッチフレーズ考案など一つひとつの作業について、私たちは、「どうすればより多くの学生に参加してもらえるか、そして貧困問題に関心を向けてもらえるか」を徹底的に考え抜くよう心がけましたし、そこが特に苦労した点でもありました。また、映画監督との打ち合わせでは、私たちは学生でもお客さんでもなく、大人の企画主催者として監督と交渉し、非常に貴重な経験ができました。その結果、本企画当日（12月19日（水））のアンケートでは参加した学生のみさんから「有意義なイベントだった」「勉強になった」といった意見を多くいただくことができ、本企画の目的を達成するとともに、私たちも大きな喜びを得ることができました。



参加者の質問に答える遠藤大輔氏

この自主企画プロジェクトは、普段の学生生活でのイベント企画とはまた違った経験ができる貴重な機会を与えてくれました。もしまたチャンスがあれば、次回は集客力向上を含め、より多くの学生に私たちのメッセージを届けることを意識して企画をしていきたいと思えます。是非、今後も多くの学生に自主企画プロジェクトに携わり、より実りある学生生活を送ってほしいです。今回私たちの企画を採用・サポートくださった皆さま、本当にありがとうございました。

文責：中原千佳（文教育学部人間社会学科3年）



「香りで味わうお酒講座」会場の様子

解答をしていただくことができました。他にも「これから活かせる知識」「とてもわかりやすく、勉強になった」「文化の変遷も興味深かった」等の声や、次の半文半理ワークショップのテーマとして、和食・化粧品・お茶・脳等々の案が寄せられました。また機会があれば今



「発酵の魅力発見講座」でテイスティングした
麹・味噌サンプル

回のアンケート結果をふまえつつ、より文理を問わず様々な方に参加していただける「半文半理ワークショップ」を実施していきたいと考えています。

文責：市木祥子（理学部生物学科3年）

学生のアクティビティ